

和の中で育ち合う

薩摩川内市立城上小学 PTA 保体部長 立野 愛弓

三姉妹のシングルマザーになったのは、三女が一才になる前のこと。一人で育児をすることになりましたが、子供たちには、たくさん人の和の中で育ってほしいと思っていました。

まず始めたのは空手です。テレビで空手少女を観たことがきっかけですが、今では私たち家族の居場所となっています。空手の技だけでなく、礼儀や心のあり方を教えてくださる先生、根気強く指導してくれる先輩、共に切磋琢磨する仲間、差し入れをしてくれるお母さんたち。大きな家族のように。その中で、子供たちは心技体共に成長しています。友だち家族とキャンプを始めたのもその頃です。少し不便な中で、みんなで工夫して一泊することで、子供た

ちは共に育ち合っていると実感しています。キャンプ仲間は、共に子育てをする大切な存在になっています。

私たちの住んでいる吉川地区は高齢集落で、子育て世帯は二世帯しかありません。地域行事に参加する中で、自然と地域の皆さんが子供たちをかわいがってください

います。我が子には、いつも気にかけてくれるおじいちゃん、おばあちゃんがたくさんいるのです。

たくさん人の和の中で子育てできることに、感謝する日々です。一人で子育てをしているという気負いはなく、子供と過ごす日々を、私が一番楽しんでもらっています。



毎年恒例の地域のもちつき大会

私の忘れられない思い出の一曲

とんび（文部省唱歌）

初任の頃の思い出

今から35年前の昭和63年4月、新任教員として栗野町立轟小学校に赴任しました。15人の4年生の担任となり、音楽専科がいなかったため、音楽が苦手な新米の私が授業をしていました。

当時、教師用教材として私にとつては大変ありがたい伴奏用のカセットテープがありました。音楽の時間、ピアノが弾けない私は、それを毎時間流して子供たち

いちき串木野市立羽島小学校

学校代表として、町音楽発表会への出場の話が校長からありました。断ることも逃げることもできず、その日から覚悟を決め、音楽の時間や朝の会などで、みんなで猛練習をしました。ピアノ伴奏は、音楽が得意なKさんをお願いし、私は指揮をすることになりました。発表曲は、今も4年生の教科書にある「とんび」という曲でした。

と一緒に大きな声で歌を歌っていました。そんな私の4年生のクラスに、

今でも、音楽室から「とんび」の曲が聞こえてくる度に、音楽発表会に向けての練習の日々や発表当日の大変緊張した面持ちで懸命にタクトを振った苦しい恥ずかしい思い出が、懐かしく鮮明に蘇ってきます。

（校長 中川辰也）

